

令和2年度第3回認知症施策検討委員会 要旨

日時 令和 3年 2月 5日 (金)

13:30～15:30

場所 高梁市役所3階大会議室1～3

1. 開 会

あいさつ (河本委員長)

認知症の方は感染対策でマスクや手洗いをする等難しいことがある。「認知症をお持ちの方とご家族の方へ」にはそういった時の対応が記載してあるので、参考にしてください。

2. 協議内容

1) 令和2年度認知症総合支援事業の実績及び次年度の課題について

(別紙のとおり)

⑧家族介護者の会(つくし会)について、来年度以降会員への研修等の周知については市内居宅介護支援事業所等を通じて行いたいと考えている。(町内回覧も検討)

2) チームオレンジの基盤づくりについて

- ・ 平成20年以降の認知症サポーター養成講座受講者数について第2回認知症施策検討委員会で提示。
- ・ 平成25年以降の認知症サポーターについて台帳を作成。サポーター総数約2500名だが、75歳以上の方が約740名。
- ・ サポーター率の低い地域は初めての人に受講してもらえるようにしていく。
- ・ ステップアップ講座については、認知症サポーター養成講座受講済みの民生委員や受講時のアンケートに記入した人を中心に開催を検討中。
- ・ 市内のキャラバンメイトで認知症サポーター養成講座に関わっていない非活動メイトが36名。キャラバンメイトとして活動が可能か確認予定。
- ・ 3月17日キャラバンメイト連絡会を開催予定としている。

3) グループワーク

①チームオレンジのニーズ把握について

- ・ 認知症初期の人を把握することが重要。
- ・ 認知症カフェで近所の人の口コミ等の情報を得る。
- ・ 気軽に言うことが出来る場所作り
- ・ 行政同士の連携(健康づくり課:健診での問診等、保健所:家庭訪問時の同居家族の様子等、**警察:駐在の巡回訪問の様子等**)で気になる人がいれば地域包括支援センターへ伝え、在介訪問等で状況を確認する。
- ・ もの忘れ外来を受診するのを待つより、小地域ケア会議、民生委員、福祉委員、町内会長等から情報を得る。

- ・ 支えきれていない人の見守り体制づくりモデル地域を決めて行ってみる。
- ・ 要配慮者名簿等から情報を得る。
- ・ 独居で家族が遠方で本人の状況の理解が出来ていない場合がある。そういったケースでの家族への支援の方法が難しい。

(意見)

- ・ もの忘れ外来には中程度進行している人が受診され、初期の人が来ることはない。一般科の医師がどうしたら良いか分からず、もの忘れ外来を勧めることも多い。本人が進んで来るというより、家族が連れて来るケースが多い。独居の方に病院が出来ることはないと感じている。また、病院受診自体のハードルが高く、家から出たくないという人が多いと感じる。検査結果と生活能力は比例しない人も多い。
- ・ 認知症カフェは認知症だからということで参加するということではなく、近所の人の口コミや出掛ける習慣をつけるために参加する人もいる。なりわ茶屋はたいこまるプラザへ開催場所を変更し、バス停前で見えやすい場所で参加の敷居が下がればと考えている。
- ・ 地域の実情を知っている人からの情報を集約して把握していくことが重要。

②アルツハイマー月間の認知症啓発活動についての提案

- ・ 視覚に訴えることが重要。市役所、地域局、警察署等の大きい建物をオレンジ色にライトアップする。
- ・ なぜオレンジ色なのか、行政放送の枠を借りて放送する。
- ・ 駅の液晶画面に広報を掲載する。
- ・ 小学生、中学生に対して、認知症サポーター養成講座を行ったうえで、夏休みの宿題として作文を募集する。
- ・ ポルカやイズミで楽しくてインパクトのあるキャンペーンを行う。
- ・ ロバの制作、塗り絵、プラバンでキーホルダー作成、チラシ等見て分かるものを作成する。
- ・ 着ぐるみを着てキャンペーンを行う。
- ・ 吉備ケーブルテレビで啓発の放送を行う。

(意見)

- ・ 周知活動は継続して行い、9月のアルツハイマー月間に向けて盛り上げていくことが重要。地道に活動していきましょう。

3. その他

- ・ 令和2年度高梁市医療・介護市民公開講座紹介、アンケート依頼
- ・ 令和3年度第1回認知症施策検討委員会 令和3年6月頃予定

4. 閉 会

あいさつ (青木副委員長)

認知症の方の支援では難しく、大変だと思うことが多いが、本日のグループワークのように明るく考え、認知症の方を明るく支援できるようになればと思います。